

### 台湾のAIDC社がMRJのスラットやフラップなど5つの部位を供給

三菱航空機株式会社は、開発を進めている次世代のリージョナルジェット機MRJ (Mitsubishi Regional Jet) のスラット、フラップ、翼胴フェアリング、ラダー、エレベーターの設計と製造に、台湾のAIDC社 (Aerospace Industrial Development Corporation/漢翔航空工業股份有限公司)の参加を決め、このほど契約を結んだ。

AIDCは、創立が1969年で40年近い歴史を持つ台湾の航空機メーカーである。1996年以来、軍用機だけではなく、民間機用の構造部分の製造も手がけており、ビジネスジェットの主翼、垂直尾翼、ヘリコプターのコクピットなどを製造している。

AIDCは契約に基づき、以下の5つの部位を担当する。

1. スラット (主翼前縁に装備される稼動補助翼で、飛行機の揚力を増大させる。)
2. フラップ (主翼後縁に装備される稼動補助翼で、飛行機の揚力を増大させる。)
3. 翼胴フェアリング (翼と胴体との接合部の覆い。)
4. ラダー (方向舵。垂直尾翼後部の動翼。)
5. エレベーター (昇降舵。水平尾翼後部の動翼。)

AIDCの社長、シャー・エイ・イー (Shiah, Yeau-Yi) 氏は、「MRJのパートナーとして次世代リージョナルジェット機、MRJのプロジェクトに参加できることを名誉と思っている。革新的な機材の製造には革新的なパートナーの組み合わせが必要であり、私たちは、世界の航空機構造部品の需要を確実に、タイムリーに満たすためのモデル事業にしてゆくつもりだ」と述べた。

当社社長の戸田信雄は、「AIDCの参加により、MRJの開発、製造の主要パートナーがほぼ出そろった。三菱航空機と三菱重工に加えて、世界一流のパートナー各社をそろえたMRJプロジェクトは、開発現場で設計、技術評価などの作業が順調に進行している。」と述べた。

MRJプロジェクトには、最新鋭の高効率エンジン「PurePower™ PW1000G」<sup>(注1)</sup>を供給するプラット・アンド・ホイットニー、パーカー・エアロスペース (油圧システム担当)、ハミルトン・サンドストランド (電源、空調、補助動力などの各システム担当)、ロックウェル・コリンズ (フライト・コントロール・コンピューター、アビオニクス担当)、ナブテスコ (フライト・コントロール・アクチュエーター担当)、住友精密工業 (降着システム担当)、スピリット・エアロシステムズ (パイロン) の各社が主要

なパートナーとして参加している。

(注1) PurePower™ PW1000G は、以前、ギアド・ターボファン (Geared Turbofan™) エンジンと呼ばれていた。

### 三菱航空機株式会社について

三菱航空機株式会社は、MRJ の設計、型式証明取得、調達、販売、カスタマー・サポートなどを担当する MRJ 事業会社として 2008 年 4 月 1 日に事業を開始した。現在の資本金は 700 億円で、三菱重工業が 67.5%を出資している。他には、トヨタ自動車が 10%、三菱商事が 10%、住友商事が 5%、三井物産が 5%を出資している。

### MRJ について

MRJ は、三菱重工業株式会社がこれまで防衛・民間航空機分野で数多くの開発・製造を行うことで培ってきた、世界最先端の航空機開発・製造技術力をベースに当社が開発する世界最高レベルの運航経済性と客室快適性を兼ね備えた 70~90 席クラスの次世代リージョナルジェット機。リージョナル機として初めて主翼、尾翼に複合材を本格的に採用、新型エンジンの搭載や最先端の空力設計などにより、燃費の大幅な低減を実現、エアラインの競争力と収益力の向上に大きく貢献する。最先端の幹線機技術を適用し、次世代リージョナルジェット機のスタンダードを創造する、環境、乗客、エアラインへ従来にない新しい価値を提供する。

### AIDC 社 (Aerospace Industrial Development Corporation) について

創立 1969 年の AIDC 社は、40 年近い歴史を持つ台湾の航空機メーカーである。1996 年以来、軍用機だけではなく、民間機用の構造部分の製造も手がけており、ビジネスジェットの主翼、垂直尾翼、ヘリコプターのコクピットなどを製造している。

以上